

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・否)

区 分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 狩猟	(ふりがな) しゅりょう	
地域独特の呼び方			
タイトル	巻狩り		
伝承地域	下郷町		
由 来	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか)		
内 容	<p>(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</p> <p>春土用が過ぎると、熊は穴を出て歩き回るようになる。</p> <p>熊の居場所は、たいがいヒラと呼ばれる山腹の平たい斜面である。狩人は2人くらいずつ組んでこういう場所を探しにでかける。熊の姿を認めたり、新しい足跡を発見したりすると早速、狩人を招集して役目や配置場所を決める。</p> <p>熊のいるヒラの上部の尾根の窪んだところはタツバと呼ばれ、ここには経験の深い狩人が待機する。セコは熊を取り囲むようにして配置につき、親方の合図で一斉に声をあげながらタツバへ追いあげる。タツバの狩人は周囲の地形をよく見て木の幹を背にしたり、柴の陰に隠れて待つ。これをタツクバリという。熊が目の前にあらわれたら引きつけ頭や月の輪などの急所を狙い撃つ。</p> <p>熊が斃れたことをマルンダという。手負いのことをハデにするといい、ハデ熊は狂暴になり巻を突破する。死んだことを確認したらホソビキで脚をくくり棒を通して担ぎ里へ下りる。熊の体中にとどまった弾はサチダマといい縁起がよいとされ鑄直して用いる。</p>		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	参考資料『下郷町史5巻民俗』(昭和57年)		

【継承活動を行っている方がいる場合】

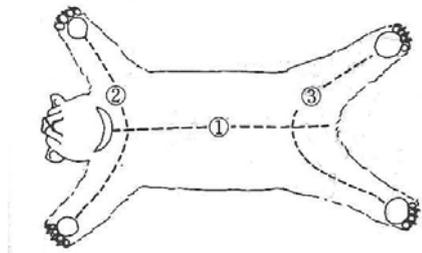
個人	氏名（ふりがな）			※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵 与願います。
	性別・年齢 生年月日	男 ・ 女	歳 明治・大正・昭和・平成 年 月 日 生	
	住所・電話	〒	電話	
	職 業			
団体	団体名（ふりがな）			
	代表者氏名（ふりがな）			
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成	不明	年 月 日
	問い合わせ先			

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード

熊の解体の順序

熊の解体を行うのは熟練の猟師で、毛皮とイ
(胆)を傷めないように慎重に皮目を裁つ。始めに
熊の腹部を下あごから肛門にかけて切り目を入
れる。次に前足部に左右にかけて切り目を入れ、
最後に後足部左右にかけて切り目を入れる。



活動の様子が分かる資料等があればコピーをご恵与ください。